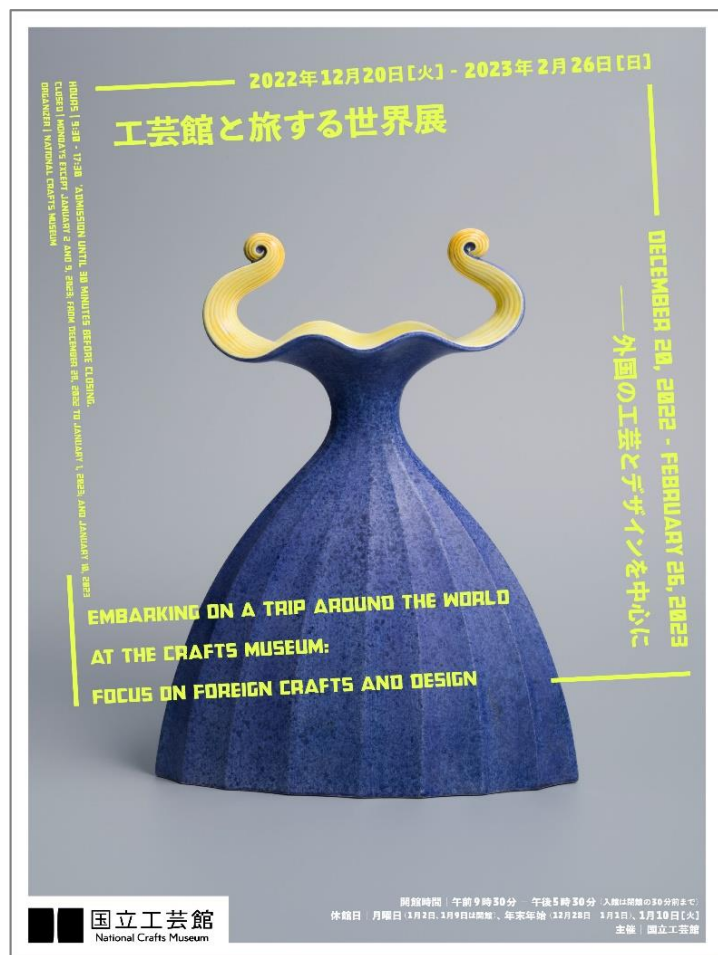


工芸館と旅する世界展 —外国の工芸とデザインを中心に

Embarking on a Trip around the World at the Crafts Museum: Focus on Foreign Crafts and Design

2022年12月20日〔火〕— 2023年2月26日〔日〕



展覧会名：工芸館と旅する世界展—外国の工芸とデザインを中心に

会期：2022年12月20日(火)～2023年2月26日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時30分 ※入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日(ただし1月2日、1月9日は開館)、年末年始(12月28日～1月1日)、1月10日(火)

観覧料：一般 300円(250円)／大学生 150円(70円)

* ()内は20名以上の団体料金および割引料金。* いずれも消費税込。

* オンラインによる事前予約もあり。

* 高校生以下および18歳未満、65歳以上、MOMATパスポート・学パスをお持ちの方、友の会・賛助会員の方、MOMAT支援サークルパートナー企業(同伴者1名まで、シルバーパートナーは本人のみ)、キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方と付添者(1名)は無料。

○割引対象：石川県立美術館・金沢21世紀美術館・石川県立歴史博物館・石川県立伝統産業工芸館(いしかわ生活工芸ミュージアム)・金沢市立中村記念美術館・金沢ふるさと偉人館の主催展覧会入場券半券、ならびにSAMURAIパスポート(一般のみ)を窓口で提示した方。

主催：国立工芸館

掲載用問い合わせ先：050-5541-8600(ハローダイヤル)

遠い国から来た工芸やデザインと一緒に、 さあ、心の小旅行に出かけましょう。

展覧会のポイント

● 国際色豊かなコレクションが一堂に

国立工芸館＝すぐれた手わざを駆使した日本の工芸品の殿堂、というイメージが強いかもしれませんが、じつは「こんな作品持ってるの!？」と驚くような世界各国の作品もたくさん所蔵しています。本展では、久しぶりにお目見えする作品も含めて、世界の工芸・デザイン作品が一堂に揃います。

※イタリアの陶芸家アルド・ロンティーニによる作品(右図)《リッコリーナ》(1987年、当館蔵)も10年ぶりの展示です。



アルド・ロンティーニ
《リッコリーナ》1987年
国立工芸館蔵
撮影：野村知也

● それぞれの国を旅するように作品と出会う

会場では、国や時代のテーマごとに作品の魅力を紐解きます。工芸もデザインも、それぞれ歴史や文化、時代性と深い関わりがあり、作品を通してその背景に思いを馳せることで、新たな発見があるはずです。

◇フランスのポスターやアール・デコ期の工芸品

(A.M.カッサンドル、ジャン・カルリュ、レイモン・サヴィニャック、ルネ・ラリック、ジャン・デュナンなど)

◇ドイツのバウハウスで活躍した作家たちの家具やデザイン

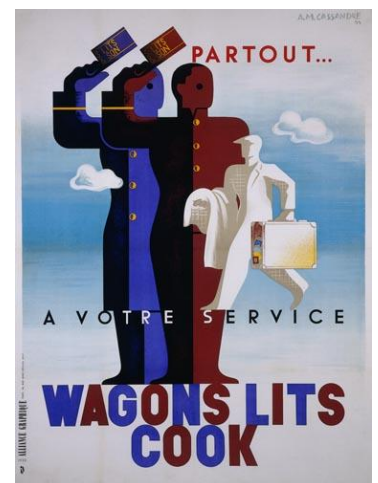
(マルセル・ブロイヤー、マリアンネ・ブランド、テオドール・ボーグラーなど)

◇イギリスの工芸

(バーナード・リーチ、ルーシー・リー、ハンス・コパー、トム・ディクソン、マイケル・ロウ、ピーター・コリンウッドなど)

◇イタリアの陶芸や工業デザイン

(カルロ・ザウリ、ゲッリーノ・トラモンティ、アルド・ロンティーニ、エンツォ・マーリなど)



(参照用図版)
A.M.カッサンドル
《ワゴン・リ・クック(旅行サービス社)》
1933年 国立工芸館蔵
© www.cassandre.fr APPROVAL by the ESTATE OF
A.M.CASSANDRE / JASPAR 2022 E4833

● 今、この時代を生きる私たちの道しるべとして

本展の出品作家には、ルーシー・リー、マルセル・ブロイヤー、イサム・ノグチ、ヘンリー・スタイナー、里見宗次など、国という境界によって、自らのアイデンティティや居場所に影響を受けてきた人々も多く含まれます。病気や戦争、さまざまな災害に今も直面する私たちに、作品が多くのヒントを与えてくれるでしょう。

展覧会概要

国立工芸館では、日本国内の工芸作品のみならず、世界各国の工芸家やデザイナーの作品収集も行い、さまざまな展覧会を開催してきました。コレクションのうち、外国人作家の作品は工芸作品が約180点、デザイン作品が約300点におよびます。

本展では、これまでまとめて展示する機会の少なかった海外作家による作品を中心に約100点をご紹介します。工芸やデザイン、それを生み出す場所の歴史や風土との関わりにも目を向ける機会となるでしょう。なかなか自由に活動することが難しい今、作品を通して、工芸とデザインをめぐる世界旅行に出かけてみませんか？

関連イベント

講演会「トランスナショナルな民芸運動を通して再考する工芸館のコレクション」

講師：菊池裕子氏（金沢美術工芸大学教授）

日時：2023年2月12日（日） 午後1時30分～午後3時

会場：国立工芸館 多目的室

主催：兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会

参加無料、要予約。申し込み方法はウェブサイトでお知らせいたします。

記者内見会

一般公開に先駆けて報道関係の皆さま対象の発表会、および内見会を行います。

12月19日（月） 11:30～13:00（受付開始11:30）

参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXでご連絡ください。



〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2
<https://www.momat.go.jp/cg/>

アクセス：

バスにて

JR金沢駅兼六園口（東口）より

【北鉄バス】

3番乗り場：18系統に乗り、「広坂・21世紀美術館（石浦神社前）」下車徒歩7分

7番乗り場：どの系統でも乗車可、

「広坂・21世紀美術館（しいのき迎賓館前）」下車徒歩9分

6番乗り場：乗車（「柳橋」行を除く）、「出羽町」下車徒歩5分

車にて

北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。

近隣に文化施設共用駐車場（無料）があります。



広報用画像一覧



図版No.1 展覧会チラシ



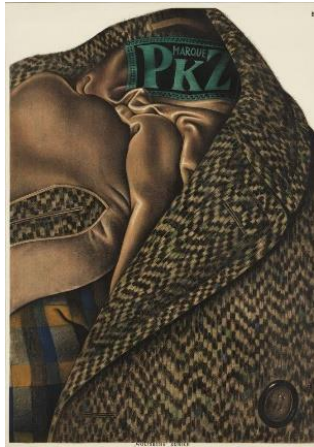
図版No.2 アルド・ロンティニ
《リッコリーナ》1987年
国立工芸館蔵
撮影：野村知也



図版No.3 マルセル・ブロイヤー
《サイドチェア》1936年頃
国立工芸館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト



図版No.4 ルース・ダックワース
《無題 No.706201》2001年
国立工芸館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト



図版No.5 オットー・バウムベルガー
《PKZブランドコート》1923年
国立工芸館蔵



図版No.6 ロスマリー・ティッシュ
《エングラータッツ (写植会社)》1983年
国立工芸館蔵



図版No.7 リハルト・リーマーシュミット
《パンチボウル》1900年頃
国立工芸館蔵
撮影：アローアートワークス



図版No.8 ロジェ・デ・ヴァレリオ
《シトロエン》1930-39年頃
国立工芸館蔵



図版No.9 ルネ・ラリック
《カーマスコット ロンシャン》1929年
国立工芸館蔵

上記画像No.1～9を広報用にご提供いたします。
ご希望の方は当館ウェブサイトの画像提供システムよりお申し込みください。
<https://www.momat.go.jp/cg/ncm-photo/>



* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券(5組10枚)をご用意しております。
ご希望の方は画像申請の際に「その他」欄よりお知らせください。